

### 将来の進路を決めた大学時代

中学、高校と陸上部で活躍し、スポーツ特待生として経営工学科へ入学した今枝さん。「学科内に現在のスポーツマネジメントのような専攻があり、スポーツ特待生が多く在籍していました。卒業まで寮生活を送り、これが社会生活を学ぶいい機会になりました。寮の仲間とは今でも親交が深いですね。」

陸上部で強い選手を目の当たりにした今枝さんは、卒業後は陸上から離れるつもりだったとか。「大手企業から内定をもらっていたのですが決められず、鈴木達夫先生に相談して教育産業株式会社を推薦してもらいました。地元密着の企業でしたし、企業規模なども自分に向いていると思いました。」

### 同じ部署で営業として道を極める

記録写真・映画などの撮影からスタートし、映像や音響の機器を駆使して教育現場や官公庁、企業などのニーズに応えてきた会社。入社後は大学・官公庁向けの営業担当になります。単にモノを売るのではなく、機器に精通しているという強みを生かし、異なるメーカーの機器を組み合わせたシステムを提案。「メーカーとお客様のハブ的な役割を担う、やりがいのある仕事だと思っています。」

25年以上にわたり、同じ部署で営業を担当。「お客様のニーズもより理解できますし、求められている以上のものを提案できるのがメリットですね。」

### 愛工大も大切な取引先の一つ

大学に対しては講義をサポートする便利な機器の紹介やラーニングシステムなどを提案。愛工大へもしばしば顔を出していた今枝さん。「母校ということもあり、とても良くしてもらいました。」

個人的にオーディオ機器を購入して応援して下さった職員の方もいて、とても感謝しています。」

2005年開催の愛知万博では、愛工大が開催した「21世紀・万博大学」のシステムに関わりました。「遠隔講義システムなどは、当社の技術を存分に使い、貢献できたと思います。」

### 人間関係に恵まれステップアップ

“社会の役に立つ人間になる”という言葉に胸に刻む今枝さん。「現場主義を大切にしている会社の方針と合っていたのかもしれませんが。上司や部下にも恵まれ、ざっくばらんで朗らかな性格のせいかもしれませんが、今まで円満にやってこれました。運も良かったと思いますよ」。年々、部下が増え、マネジメント業務も多くなったそうですが、淡々と仕事をこなしてきたと言います。

### そして、5年前には社長に就任します。

### 働きやすく働きがいのある会社に

早速、様々な改革に取り組みました。働きやすいオフィスを目指し、デスクをフリーアドレスにし、会議室のフロアや営業所をリニューアル。「設計を若い社員に任せたことで、椅子のない会議室ができました。また、女性社員に部屋の表札デザインをやってもらったところ、表札には部屋番号の代わりにHz(ヘルツ)やV(ボルト)など、当社に関わりの深い記号が付けられました。」

また、チームづくりに力を入れました。「今までは個人商店のように一人で担っていた営業を、チームで動けるような体制にシフトしました。」

働きがいのある会社になれば、社員のモチベーションも上がり、成長できると考える今枝さん。5年、10年先を見据えて、女性社員の総合職を増やし、リーダーを育成していく予定もあるそうです。

「社内改革をしつつ、今後ともお客様にとって役に立つ会社でありたいと思っています。」

いまだ のぶやす  
教育産業株式会社 代表取締役社長 今枝 伸保さん(58K)



大型の映像設備があるエントランス



LEDディスプレイが設置された会議室

### インターンシップの経験を生かして

ものづくりが好きで、機械工学科、建築工学科、土木工学科のいずれかへと思っていた相武さん。

「土木工学科へ進んだのは、ランドデザインができるのと、事業のスケールに魅力を感じたからです。」

学生時代の思い出は、御岳で行われた測量実習。「4年間参加し、2年生からは指導をするようになりました」。他には3年間続けたアルバイトが印象深いか。「土木系のコンサルタント会社で、図面を手書きで写す作業などをしました。道路や都市計画の事業を垣間見ることができ、いい経験になりました。」

### 民間企業から市職員への転身

卒業後、土木系のコンサルタント会社へ入社。パブル時代で事業は多く、アルバイト経験があったので即戦力として期待され、多忙を極めたそうです。「入社3年目に出身地である常滑市役所が7年ぶりに職員募集をすると聞いて転職を決意し、受験しました。」

見事合格し、1989年4月から市職員として建設部土木課に配属されます。「主に道路の維持修繕を担当しました。会社での経験を生かして、業務を進めることができました」。ただ、システムなどハード面は民間企業が先行していた時代、業務効率化の必要性は感じたそうです。

### 中部国際空港の事業に関わる

その後、下水道課、都市計画課を経て、土木課幹線道路担当になり、中部国際空港へのアクセス道路を整備する事業に関わることになります。「面接時に空港に関わる事業を担当したいと言ったので、配属されたのかもしれませんが。」

知多横断道路は県の事業ですが、常滑市内の約4キロメートルにおいて、地元市民への説明会や用地買収などの調整に奔走した相武さん。「地元出身なので顔見知りも多く、反対意見をはじめ様々な言葉をかけられ大変なこともありましたが、事業は道路の都

市計画決定から供用開始まで5年という異例の速さで進みました。」

### 未経験の仕事にも果敢に挑戦

5年にわたり空港関係の大きな事業をやり遂げ、都市計画課に移って常滑ニュータウンの地区計画にも携わります。その後も建設部署で、今までの経験や知識を生かしながら様々な事業を担当しますが、入職20年目で全く未経験だった庶務担当へ配属になります。「企業立地の調整や土木経理の仕事を行うことになったんです。」

翌年の2011年に東日本大震災が起きます。「何かしなければという使命感にかられました」。復興事業が始まると職員派遣要請に手を挙げて、2015年に宮城県七ヶ浜町へ赴きます。「被災地を実際に訪れて、自然の猛威を実感しました」。建設課で道路以外にも防潮堤や漁港などの災害復旧事業を担当。「しばらく現場を離れていたのが取り戻すのが大変でしたが、初めての海岸工事も含めて本当にいい経験になりました。無理を言って、派遣へ行かせてくれた家族と職場に感謝しています。」

### 様々な経験を経てさらなる新天地へ

宮城から戻り、都市計画課長、土木課長を歴任したあとに、思いもよらない部署へ配属になります。「議会議務局長に任命されて、『えっ、私が?』と思いました。技術職出身の局長は私で2人目でしたし...」。ただ、空港関係の土木事業などで議会ともコミュニケーションは取っていたので、その経験が役に立つと前向きにとらえたそうです。

「議会に異動して良かったのは、市の事業全体を見渡すことができるようになったことですね。」

あいむ ひろひで  
常滑市議会議務局長 相武 宏英さん(61D)



中部国際空港関連事業で手掛けた知多横断道路



派遣先で行った七ヶ浜町防潮堤災害復旧工事

